

【記者からの質問】

共同通信／海洋プラスチック問題を「知る・体験する・行動する」の「行動する」が指しているものは何か。また、目に見えている問題があれば教えてほしい。

知事／波戸岬の漂着ごみは回収してもすぐにたまり、いたちごっこになっている。部分的に解決するのではなく、世界中の皆で考えて次世代に繋げないといけない。そのためにまず、地域が連携することで大きな力になるのではないかと思う。どこまで広がるかはわからないが、始めることに大きな意義がある。

回収したものを原料化し、再生加工する過程を体感できるようにしたい。これから世界に向けて様々な発信をしていく。多くの人たちに知っていただく仕掛けがつかれるかが大きなポイントだと認識している。

西日本新聞／ネストヴィレッジ（仮称）への期待感を教えてほしい。

知事／以前からサガン鳥栖の育成は非常にうまくいっており、SSP 構想を考えるきっかけの1つになった組織。これに、医科学施設や様々な附帯ビジネスを展開すれば、引退後の選手が戻れる巢のような場所にもなる。SSP 事業が発展していくモデル事業ともいえる。Cygames の企業版ふるさと納税の7億円を生かした事業。官民一体となった SSP に対するキックオフになる。

西日本新聞／介護テクノロジー導入支援事業に年度途中で補助金を導入する目的は？

知事／ニーズが強く、想定より希望が多い。この事業は国庫が5分の4入り、国も推奨している。意欲的な事業者には、増額していきたい。

西日本新聞／サポートセンターの設置で、望む声が多くなったのか。

知事／介護を人力だけでやっていたところが、センターで研修を受け、機器を試用することで、気づきに結びつき機器の導入につながった。

4分の3の補助が下りることもあり、啓発がうまくいっている。

日経新聞／世界海洋プラスチックプランニングセンターのオープンが2026年夏。事業の準備で600万円、債務負担行為が900万円とある。投入の流れを教えてほしい。

知事／本体の事業費は別。600万円は、旅行会社とタイアップし、モニターツアーや旅行商品の造成にかかる費用。来年4月からは施設案内標識の製作、設置に取り掛かる。4月の発注では間に合わないので、債務負担行為を900万円とした。議会の了承を得て準備に取り掛かりたい。

日経新聞／11月補正予算に入る部分が600万円。4月以降に900万円。事業としては、

もっと大規模だと思うが。

知事／事業全体の費用は、担当に聞いてほしい。今回は、数億円の事業の一部を計上した。

日経新聞／プラスチックの再生、加工が得意な事業者が県内にあると思うが、それらを巻き込んで展示センターで現場を見せていくイメージと考えていいか。

知事／そうなのといい。しかし、まずは啓発から進めたい。指定管理者は決まっており、事業者との連携が得意なところもあるので、相談をしながら、地域発の事業の在り方を考えていきたい。

佐賀新聞／物価高対策など県の追加補正の考え方と補正予算を組むにあたり困ったことがあれば教えてほしい。

知事／3年ほど前から物価高対策に取り組んでいる。国がおおまかに経済対策を組む中、県内の経済対策をきめ細かく、巡視しながらやってきた。

現在、交付金は使い切った。国で経済対策約14兆円が議論されている。それに合わせた形での追加提案もあるだろう。2月補正と当初予算の編成に入っている。重点支援交付金のような形で来ると思われるので、物価対策会議等を開き、何をなすべきかを構成していく段階。今は待っている状況。

読売新聞／プラプラの今年度モニターツアーと旅行商品の造成は、オープン前の施設に修学旅行生が見学することを想定しているのか。

県職員／オープン前に代理店の営業担当者が来て、周辺の観光施設と合わせて設定を考えてもらう。

読売新聞／旅行会社に来てもらい、ツアープランを考えてもらうということか。

知事／このエリアには、ルートグランブール、呼子の朝市、名護屋城もあり、見どころ満載。旅行商品をつくる方に来てもらい、今から設定してもらう。

NHK／補正予算の編成にあたり総括を。

知事／どうしてもやらなければいけないものだけをピックアップした予算。県民の皆さんからも物価高騰の声が寄せられている。県としてやるべき事業を厳選しながら、県民の期待に応える予算をつくる準備段階。

NHK／さがすたいるアウトドアフェス開催事業とプラプラ開設準備事業を新規に盛り込んだことへのお考えを。

知事／この2点は、物価高対策ではない。さがすたいる事業での、障害者の「こんなこ

とが体験できるんだ」という声が印象的だった。彼らのキャンプやアウトドアを体験したいという声を受け開催する。スノーピークも障害者にできる限りバリアフリーで対応したいという意欲がある。そこから、新たな気づきも得られるようなモデル事業となればと思う。体験物はみんなでつくりあげる端緒となるので続けていきたい。

プラプラは、今後どう展開するか私にも読めないところがある。原発立地県だからこそその思いもある。多くの人に様々なことを知ってもらいたいので、海プラ問題に取り組んだ。これが機能するために、準備事業を選定した。

西日本新聞／全国にあるほかの育成施設と比べた、ネストヴィレッジの人を呼ぶポイントを教えてほしい。

知事／既存のサガン鳥栖U-15の練習場は、水はけが悪くサッカーに適さない場所だが、指導者が優秀なので九州中から選手が集まっていた。何とかしたいと思っていたところ、Cygamesより企業版ふるさと納税の話があり、U-15の選手のために整備して、将来日本代表になる選手を育てたいとできた事業。日本中から、ここで育てられたいという選手や引退した選手も集まって、新たな巣立ちを応援するようになると期待する。